

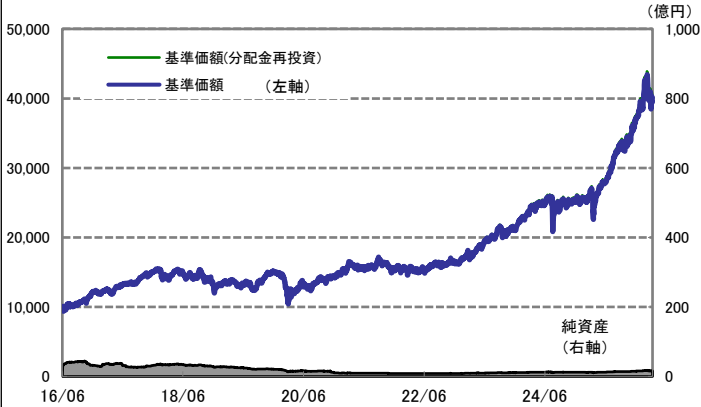


運用実績

2026年3月31日 現在

運用実績の推移

(設定日前日=10,000として指数化:日次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

基準価額※ 39,467 円

※分配金控除後

純資産総額 15.6 億円

騰落率	
期間	ファンド
1カ月	-9.1%
3カ月	5.8%
6カ月	18.0%
1年	50.6%
3年	125.1%

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

設定来 299.2%

- 信託設定日 2016年6月20日
- 信託期間 2026年7月13日まで
- 決算日 原則1月、7月の各12日  
(同日が休業日の場合は翌営業日)

分配金(1万円当たり、課税前)の推移	
2026年1月	10 円
2025年7月	10 円
2025年1月	10 円
2024年7月	10 円
2024年1月	10 円

設定来累計 190 円

設定来=2016年6月20日以降

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。  
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

資産内容

2026年3月31日 現在

資産・市場別配分

資産・市場	純資産比
株式	98.1%
東証プライム	94.0%
東証スタンダード	4.1%
東証グロース	-
その他	-
株式先物	-
株式実質	98.1%
現金等	1.9%

・株式実質は株式に株式先物を加えた比率です。

業種別配分

業種	純資産比
卸売業	14.2%
銀行業	10.9%
不動産業	9.3%
その他金融業	7.2%
化学	6.4%
その他の業種	50.2%
その他の資産	1.9%
合計	100.0%

・業種は東証33業種分類による。

組入銘柄の予想平均配当利回り<sup>(※)</sup>

約 3.2%

(※)上記の予想平均配当利回りは、組入銘柄の今期または前期の配当予想(課税前)を、加重平均して算出しております。上記の値は市況動向等によって変動します。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。  
(東洋経済新報社データ等を基に野村アセットマネジメントが作成)

組入上位10銘柄

2026年3月31日 現在

銘柄	業種	市場	純資産比	継続増配年数
電源開発	電気・ガス業	東証プライム	1.5%	28年
SBIホールディングス	証券、商品先物取引業	東証プライム	1.5%	16年
いちご	不動産業	東証プライム	1.4%	14年
エスリード	不動産業	東証プライム	1.4%	16年
オリックス	その他金融業	東証プライム	1.4%	17年
サンフロンティア不動産	不動産業	東証プライム	1.4%	15年
みずほリース	その他金融業	東証プライム	1.3%	23年
北海道瓦斯	電気・ガス業	東証プライム	1.3%	46年
カメイ	卸売業	東証プライム	1.2%	43年
クレディセゾン	その他金融業	東証プライム	1.2%	40年
合計			13.7%	-

組入銘柄数：110 銘柄

・業種は東証33業種分類による。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は

**NOMURA 野村アセットマネジメント**

商号：野村アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
加入協会：一般社団法人資産運用業協会 / 一般社団法人第二種金融商品取引業協会



## 先月の投資環境

- 3月の国内株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が月間で11.19%下落し、月末に3,497.86ポイントとなりました。
- 3月の国内株式市場は下落しました。月初には、米国とイスラエルがイランへの軍事攻撃を開始したことで、イランが原油輸送の要衝であるホルムズ海峡を事実上封鎖したと報じられました。これを受けて供給不安による原油価格の上昇が企業業績や景気の下押しにつながるとの懸念が高まり、株式市場は大きく下落しました。その後も、中東情勢の悪化に伴う物流停滞や原油価格の上昇を通じたインフレ圧力の強まりなどから、下落基調が続きました。中旬に入り、米国とイランとの停戦協議進展への期待が高まったことなどで反発する場面もありましたが、月末にかけては、イランによる和平案の拒否や、米国防総省がイランでの地上作戦を準備しているとの報道など、停戦協議の先行き不透明感が意識され、株式市場は再度下落し、月間でも大幅下落となりました。
- 東証33業種で見ると、中東情勢悪化による原油価格高騰の恩恵を受ける鉱業など2業種が上昇しました。一方で、燃料費上昇による収益悪化が懸念された空運業など31業種が下落しました。

## 先月の運用経過

(運用実績、分配金は、課税前の数値で表示しております。)

- 月間の基準価額の騰落率は9.10%下落しました。
- 業種別騰落率を見ると、卸売業、銀行業、不動産業が下落したことがマイナスに影響しました。
- 個別銘柄では、石炭火力発電および水力発電が主体で風力発電も積極的に展開する電力卸売会社や、既存不動産の再生・活用に強みを持ち、再生可能エネルギー分野も手掛ける不動産会社が上昇したことなどがプラスに寄与しました。一方、自動車向けタイヤが主力でゴルフ用品、航空部品なども手掛ける会社や、貴金属リサイクルが主力で食品関連事業なども手掛ける会社が下落したことなどがマイナスに影響しました。

## 今後の運用方針 (2026年3月31日現在)

(以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

- 今後の投資環境  
日本経済は、中東情勢の緊迫化による原油などのエネルギー価格高騰の影響が懸念されます。エネルギー価格上昇は、物価上昇や景気下振れなどのリスクを高めることとなります。2026年夏場にかけては、インフレ率上昇が実質所得を下押しするとみています。また、エネルギー価格の高止まりや原油供給などの混乱の長期化は、企業の景況感悪化につながります。一方で、政府の中東情勢を踏まえた緊急的なガソリン価格抑制策や投資促進税制を含む官民連携投資促進策などが、経済成長率の下振れを緩和することが見込まれます。3月の日銀金融政策決定会合では政策金利の維持が決定されましたが、その後に発表された「主な意見」では、物価上振れリスクを重視し、利上げを選好するコメントが目立ちました。当社は、年央の利上げをみていますが中東情勢の落ち着きが前提条件となります。当社では、2026年の日本の実質GDP(国内総生産)成長率を前年比+0.6%と予想しています。
- 投資方針  
当ファンドは、長期にわたり継続増配が期待できる企業を選別し投資を行ないます。継続増配企業の特徴は、過去の世界的な景気後退期においても、株主還元姿勢を崩すことなく配当を継続してきたことです。良好な財務内容や高い株主還元姿勢に加え、長期的な視点でみた安定した収益基盤、利益成長が継続的な株主還元を支えています。今後も、配当の継続性、増配の可能性、配当利回り、株価水準などを勘案し優良な銘柄に投資を行ないます。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)(ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は

**NOMURA 野村アセットマネジメント**

商号：野村アセットマネジメント株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
 加入協会：一般社団法人資産運用業協会 /  
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会



組入上位10銘柄の解説

2026年3月31日 現在

組入銘柄	組入銘柄解説
1 電源開発	自社保有する火力、水力発電所により、卸電気事業を中心に展開している。海外における発電事業に取り組んでいる。 総還元性向30%を目安に、利益水準、業績見通し、財務状況等を踏まえた上で、安定的かつ継続的な還元充実に努めている。
2 SBIホールディングス	銀行業、証券業、アセットマネジメント業などを手掛ける金融グループ。 配当金総額に自己株式取得額を加えた総還元額を、当面の間は金融サービス事業において子会社等株式売却益などの特殊要因を除いた税引前利益の30%程度とすることを目指している。
3 いちご	一期一会を商号の由来とするサステナブルインフラ会社。国内不動産に集中投資する方針。既存不動産の再生、活用に強みを持ち、ホテル事業、クリーンエネルギー事業、アセットマネジメント事業などを展開する。 配当金は原則とし前期比維持か増配とする累進的配当政策を基本とし、DOE(株主資本配当率)4%以上も採用し配当の安定化を図っている。
4 エスリード	近畿圏のマンション供給において長期にわたり安定してトップクラスの実績を持つ不動産会社。投資型マンションや新築分譲マンションを展開する。 業績推移や財務状況、今後の事業展開等を総合的に勘案しながら、企業価値の向上に応じて配当総額を持続的に高めることを基本方針としている。
5 オリックス	リース業を核に保険、信託、消費者金融、不動産、クレジット、プロ野球球団など多角展開している。 業績を反映した安定的かつ継続的な配当を行なうことを基本方針としている。
6 サンフロンティア不動産	都心において、中小型オフィスビルを中心に不動産再生を手掛ける。ホテル開発や、海外展開も行なっている。 長期的かつ安定的な利益還元に努めることを基本方針としている。
7 みずほリース	リース、レンタル、割賦、貸付をはじめ幅広い金融サービスを提供している。 収益力の向上を図りつつ業績に応じた配当を実施することを基本方針としている。
8 北海道瓦斯	北海道が基盤の総合エネルギーサービス会社。天然ガスを全道に届けるとともに、電力自由化に伴い参入した電力供給も行なっている。 継続的かつ安定的に配当を行なうことを念頭に、累進配当を基本としながらDOE2.5%を目標としている。
9 カメイ	仙台に本社を置く石油販売会社。食料品、カーライフ事業、建設資材、調剤薬局など多角化。地域社会に密着し、人々の生活に役立つ総合商社として活動発展する。 累進配当の継続を重視し、配当性向30%を目安としている。
10 クレディセゾン	大手クレジットカード会社。カード、ファイナンス、資産運用ビジネスなどを手掛ける。アジアにおける事業拡大を図る。 内部留保金の拡充を図る一方、株主への適正かつ安定的、継続的な配当を行なうことを基本方針とし、配当性向30%以上を目標としている。

(出所)「組入銘柄解説」は、各社ホームページ等の情報に基づき野村アセットマネジメントが作成しています。

(注)当資料はファンドの上位組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は

**NOMURA 野村アセットマネジメント**

商号：野村アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
加入協会：一般社団法人資産運用業協会 /  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会



ファンドの特色

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
- わが国の株式を主要投資対象とします。
- 株式への投資にあたっては、個別銘柄の流動性および収益性等を勘案して選定した銘柄の中から、継続増配を行なっている企業の株式に投資することを基本とします。
  - ・当ファンドにおいて「継続増配」とは、各事業年度における1株当たりの配当金\*が、一定期間内において複数回増加しており、1事業年度においても減少していないことを指します。
  - ・当ファンドにおいて「継続増配を行なっている企業」とは、各事業年度における1株当たりの配当金\*が、一定期間内において複数回増加した企業のうち、1事業年度においても減少していない企業を指します。
 ※発行済株式総数の変動や決算期の変更によるもの等、実質的な観点より修正した値とします。
- ポートフォリオの構築にあたっては、配当利回り等を勘案して、組入銘柄および組入比率を決定します。当初ポートフォリオ構築後は、保有銘柄の将来の配当予想等を配慮し、定期的にリバランスおよび組入銘柄の見直しを行なうことを基本とします。
- 株式の組入比率は、原則として高位を基本とします。
- 原則、毎年1月および7月の12日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。
 

分配金額は、分配対象額の範囲内で、配当等収益等の水準および基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

 \* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の配当金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

ファンドは、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により基準価額が下落することがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。 ※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 2026年7月13日まで(2016年6月20日設定)
- 決算日および収益分配 年2回の決算時(原則、1月および7月の12日、休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の基準価額
- ご購入単位 1万円以上1口単位(当初元本1口=1円) または1万円以上1円単位 (ご購入コースには、分配金を受取る一般コースと、分配金が再投資される自動けいぞく投資コースがあります。原則、ご購入後にご購入コースの変更はできません。) ※お取扱コース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ファンドはNISA(少額投資非課税制度)の対象ではありません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.3%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.595%(税抜年1.45%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時)	1万円につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。 ※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

＜分配金に関する留意点＞

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

ファンドの販売会社、基準価額等については、下記の照会先までお問い合わせください。

野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ 0120-753104 (フリーダイヤル)

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

★インターネットホームページ★ <https://www.nomura-am.co.jp/>

<委託会社> 野村アセットマネジメント株式会社

[ファンドの運用の指図を行なう者]

<受託会社> 三菱UFJ信託銀行株式会社

[ファンドの財産の保管および管理を行なう者]

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)、ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身で判断ください。

◆設定・運用は

NOMURA 野村アセットマネジメント

商号: 野村アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
加入協会: 一般社団法人資産運用業協会 / 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

# 野村継続増配日本株

## お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
野村証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。  
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。